

白井自然環境調査員要請講座 レポート課題

2004.12.11

課題テーマ 未来に残したい白井の自然と、自然環境調査員としての調査計画

白井の自然の中で自分が気に入っている環境、将来に是非とも残していきたいと考えている環境・場所を具体的にあげ、そのうえでその環境を残していくために主体的に調査したいと考えている項目・その計画をまとめてください。

どんなことを調査していきたいか、すべきと考えているか、頭の中にあることを書き出してみてください。それを受けて、私たちが助言していきたいと思います。どうしても、難しいというのであれば、個別に相談にのります。

来年度の計画(案)を下に示します。

2005(平成17)年度

1) 重点調査地域における生物調査(神々廻地区を中心に、谷田地区の補足)

菌類、地衣、コケ、クモ、チョウ、昆虫、鳥類

2) 月1回の合同調査(観察会をかねる)・地元 NPO と合同で行う

あるテーマで、ある具体的な場所において、調査員が講師となって参加者とともに一緒に観察、調査を行い、後日参加者がその手法にのっとなって、白井市内をいくつかのブロックにわけ、分担地域の調査を担当・実施する。全てを行う必要はなく、メニューの中から最低1つを選ぶ。

3月中旬 アカガエルの卵塊調査

4月上旬 コブシの開花樹木とアズマヒキガエルの卵塊、幼生調査

5月中旬 ホオジロとヒバリの分布調査

6月中旬 ヤブキリの分布調査

7月下旬 ヒグラシの分布(孤立林を1つの単位として、鳴き声による調査を行う)

8月上旬 カメの生息状況調査(モニタリング)

9月上旬 バッタ類の種類構成調査

10月中旬 キノコの種類構成調査(谷田と神々廻)

11月中旬 モズのなわばり(地図に調査したルート図を書き込み、発見した地点を記入する。観察事項をシートに記入する)

12月中旬 地衣類の採集と同定

3) 白井土地利用状況調査(調査員養成講座修了者の1年目、課題調査として、委託する)

4) 第2期、調査員育成講座継続(後期から月1回の講座、調査実習を含む現地講習2回)

5) 地元調査員育成講座初年度卒業生の中から東邦大学理学部の研究生となり、広域調査をテーマとする研究を開始(テーマは、環境指標生物による白井市の自然環境評価)

約3名(陸上動物、植物、魚類・水生生物)を募集する。研究生の経費(年間10万円)は、受託費からまかなう。文献検索など、サービスを受けることができる。

6) 東邦大学の大学院生・卒業研究生による調査

河川環境調査

草原植生のフロラ把握

7) 自然観察指導員講習会の開催(10月下旬)

6) 調査年報の作成(CD版)・調査結果は学会誌に投稿する